

『新緑の岡崎エリアを歩く』

平安時代の11世紀後半、岡崎の地には貴族の別荘(別業=べつごう)や院の御所の他、六勝寺を始めとする多くの寺院が造営されました。しかし次第に衰退し、応仁の乱後にはそれらは廃絶し畑地となっていきました。幕末動乱期になると大名屋敷が数多く築かれ繁栄しましたが、明治維新後の東京遷都によって再び農地に戻っていきました。

京都府は、東京遷都により衰退した京都の復興策として1890年に琵琶湖疏水を建設、1895年には平安遷都1100年の記念事業の一環として第4回内国勸業博覧会を開催し、日本初の路面電車を走らせるなどインフラ整備を進めていきました。

今回のウォークでは、白川沿いの史跡を歩いた後、六勝寺跡など平安時代の史跡と明治以降の産業振興と琵琶湖疏水関連の史跡を巡ります。

